



義務教育学校 第9学年

最終号

平成31年3月11日発行

タイトル

9-B

卒業おめでとう

学年主任

保護者の皆さま、お子様の御卒業おめでとうございます。

心より御祝い申し上げます。3年前の春、お子様は新しい制服もどことなく身につかないような幼さを残していたことでしょう。私は長く小学校に在籍していましたが、毎年、手を引かれ入学式にくる小学1年生も、手こそ繋いではない中学1年生も、新しい門出を喜ぶ保護者の方の笑顔、期待と不安を胸にする子どもたちの様子は、どちらも同じであり、微笑ましい思いでいっぱいでした。

私たち9年部会の職員は、この成長を嬉しく思い、輝きをぐんと増す後期課程のお子様たちと共に過ごせたことを心より喜んでおります。保護者の皆様には、長年にわたり本校への御理解と数々の御支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。私は皆さんが8年生のときにこの附属にきました。

皆さんと過ごした2年間、先輩にあこがれ、先輩に追いつき追い越したいと、果敢に努力している姿を幾度となく見てきました。その一つが修学旅行の場面です。当日の発表では、創作心理ドラマに想いを凝縮させ、豊かな表現力で多くのお客様を魅了しました。しかし、その裏には、記録的な豪雪の中、思うように計画を進めることが出来ず、不安と迷いの中、実行委員が一丸となり活動する姿がありました。学年全体として目指すべき姿を共有するだけでなく、「自分に何ができるのか」「今日のこの時間に何をすれば良いのか」を自分の問題として考え、行動することで乗り越えてきました。

また、体育祭、文化祭という本校の二大行事も立派にやり遂げました。スポットライトを浴びた人もいれば、裏方に徹して貢献した人もいました。感極まって涙を流した人もいました。皆さんが下級生を引っ張りながら真剣に取り組み、その成果を示した姿は実に見事でした。当日起こったいろいろなハプニングにも、諦めの心を制し、仲間と頑張り通すことではじめて得られる達成感とうれしさを身もって知ったことでしょう。

これから皆さんは多くの困難を乗り越えていくことになるでしょう。困難を乗り越えていくためには、失敗や苦労はつきものです。傍観者に徹する人もいますが、実際にやった人と見ていただけの人では、得られるものが全く違うことをこの3年間で経験したはずです。

「水は低きに流れ、人は易きに流れる」学生時代の恩師がよく使っていた言葉です。楽することを覚えるな。今の自分にできることだけで満足するな。何事にもチャレンジする気持ちを忘れるな。本当によく怒られました。皆さんが附属の3年間で培ってきた力は、一人ひとりの役割に違いこそあれ、活動誌の中に書かれているように、必要な力の本質は同じであり「自主・協同」の精神なのです。仲間と素直に喜び合い、次の高みに向かって歩んでください。その時、自分の成功は身近にいる人々の支えがあったからということを忘れないでください。

最後に、現在の皆さんがここまで大きく成長できたのも、皆さんの成長を祈り楽しみにしている保護者の方々をはじめ、多くの人たちの支えがあったからです。これまでの感謝と今後の高い志を胸に、この卒業式で有終の美を飾りましょう。

○生徒達の活動の様子

～附族 Memories Special～

このコーナーでは、3年間の様子を振り返ります。
どんな場面だったか思い出しながら写真を見てください。

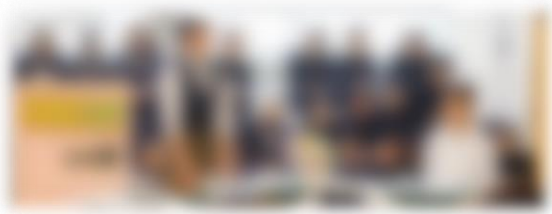
1 年生





8 年生





9 年生





〇9 年生担当教員からメッセージ



温故創新

9年A組 担任

卒業を目の前にして新たな世界に期待で胸膨らませている皆さんにどんな言葉を贈ろうか考えましたが、やはり私は国語科の教師であるので、国語科の授業に準えて記そうと思います。

「温故知新」この言葉は皆さんが前期の国語科の授業で学習した孔子の「論語」の中の章句です。「故きを温めて新しきを知る」すなわち「過去の事実を研究し、そこから新しい知識や見解をひらくこと」という意味が込められています。今からおよそ2000年前から伝わるこの言葉は、これから皆さんが生きていく上でとても大切なことを示唆するものであるのは間違いありません。先人のたどってきた足跡や様々な事象を丁寧に紐解き、新たに自分たちの学びへとつなげていくことは、この附属での探究そのものだと言えるでしょう。

これから皆さんが歩んでいく社会は、変化が激しく予測することが困難であると言われています。そのような社会の中でよりよく生き抜き、第一線で活躍するためには、「温故知新」の意識をもって学び続ける姿勢を大切にしたい上で、「温故創新」の意識も必要ではないかと考えます。

「温故創新」この言葉は私が考えた造語です。その言葉には、「昔からよいとされてきたことを大切にしたい上で、何も無いところから突破口を見出して新たな価値を創り上げていってほしい」という意味が込められています。このことは、絶対に一人だけではできません。仲間との関わりの中で協働して探究し続けることで可能になっていくことなのではないでしょうか。まさに皆さんの意識の中にあり続けている校訓「自主協同」が目の前に立ちはたかると問題や課題などの壁を突き破る鍵となることでしょう。

これから皆さんはたくさんの壁に突き当たり、困ったり悩んだりすることが多かれ少なかれあると思います。そのような場面は避けて通りたいと思いますが、実は自分たちを成長させるよい機会であると捉え、これまでの附属での学びを活かしながら、仲間と共に成長し、激動の社会で活躍されることを信じています。

学P心理と欲求の段階説 自己実現と社会貢献

9年B組 担任

学年プロジェクト活動誌を読んで、長い時間をかけて取り組んできた様子を知りました。学校内外の人との関わり、入学して間もない頃から討論を重ねてきたこと、ゴールが分からず遠回りしたこと、無駄に思えた時間も振り返ってみれば必要な時間で、それが私達を成長させてくれた、という内容が多くありました。心理というテーマを今後も探究していきたいという意欲も多かったです。こうして書き留める中で自分の姿に向き合うことに価値があるのだらうと感じました。

学Pテーマ心理に関連することで、いつかの学年通信に「人間の欲求」について書かせていただきました。その内容は『人間の欲求には段階説があり、生理的な欲求や安全に生活できるという欲求が満たされたから、自己を高めたい、社会に貢献したいという上位段階の欲求が湧いてくる』というものです。これを学校という社会に当てはめた時、みんなが気持ちよく生活するには、次のことが大切だと私は考えています。

- ・自分の意見を持ち、何がやりたいのかという意志を示す
- ・何かを頼まれたら、自分への信頼と受け止めて、誇りを持って引き受ける
- ・敬遠されがちな役割を引き受けている人がいることに気づいて、協力をする

自主協同の校訓のもと、これらを意識して社会をつくっている場面が多々あり、段階説に照らすと上位段階に達していることが幸せなのだと感じていました。

これから大人になるにつれ、自己実現と社会貢献、自分の社会的役割について考え悩むことでしょう。人との関わりや話し合いが大切だと気づいた皆さんが、心理という言葉をも身近に置いて、自分も周りも大切にしながら活躍していくことを願います。

未来へ

9年C組 担任

ご卒業おめでとうございます。今、学び舎を巣立つみなさん。どのような心持ちでしょうか。この3年間、様々な学びをともしてきた仲間との別れは、つらいものでしょう。特に、2年間、毎日同じ教室であらゆることを共有してきたクラス仲間とは、もはや家族に言えないとも言える間柄。寂しさはこの上ないものかもしれません。私自身、君たちの成長を3年間見守ってきた者として(3年間一緒に過ごせたのは、今の学年スタッフの中では唯一私だけ。)別れは本当に寂しいです。

3年前、真新しい制服に身を包み、初めてこの学年の仲間たちと肩を並べた入学式。少し不安そうな面持ちでこれから始まる3年間に期待を膨らませつつ、志のある眼差しがとても印象的でした。私も同じように、赴任したてで、みなさんの意欲あふれる表情に、勇気をもらったのを覚えています。

この3年間、いろいろなことをみなさんから教えてもらいました。仲間と協働して物事を成し遂げること、納得のいくまで議論を重ねること、失敗を恐れずに挑戦すること、友達の意見から学びを深めていくことなどの大切さを、身をもって教えてくれましたね。附属での学びは一生の宝です。私にとってもみなさんと過ごした3年間は大きな学びであり、一生の宝です。

これからみなさんはそれぞれの未来へと踏み出します。迷うこともあるかもしれませんが。そんなときは必ず附属での学びがみなさんを後押ししてくれます。みなさんの活躍をこれからも心から応援しています。

これからの人生をつくっていくみなさんへ

9年 副担任

「心が変われば態度が変わる 態度が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる 運命が変われば人生が変わる」という格言を聞いたことがあるでしょう。

15才まで成長したみなさんの人格や性格は、そう簡単には変わらないと思います。いろいろな場面で人は臨機応変な行動をとることを求められます。どのような人生を送れるかは、いろいろな場面にどのように対応できるかにかかっていると言えるでしょう。私は、すねやすい性格です。気に入らないことがあるとすぐむっとしてしまいます。こんな性格だから損をしてきたことがたくさんあります。私は気に入らないことがあっても「ごめんなさい」と言えるように心がけるようにしています。それが習慣化されると周りの人との関係が変わってきたことに気づきました。

テストの点数で人生が多少影響を受けることは否めません。それよりも、自分の行動や瞬間や心の持ち方の方がはるかに人生に及ぼす影響は大きいです。学校はこれらを進歩させていける大切な場所です。心や行動や習慣を時々振り返ってみてください。

とうとうむじん 燈々無尽の心

9年 副担任

本来であれば、君たち一人ひとりに直接伝えたいとは思っているものの、この場を借りて伝えておこう。

『卒業おめでとう。君たちと過ごした日々は本当に楽しく素晴らしいものでした。本当にありがとう。』

君たちと過ごした二年間は私にとって、言葉では書き表すことの出来ないほど密度の濃い二年間だった。たかだか数百文字でこの二年間を振り返ることはできないし、何より無粋というものだろう。いつの日か君たちと再会できることを信じて、この素晴らしい二年間を振り返ることは、その日までとっておこうと思う。

さて、この場では、『燈々無尽』という言葉が君たちに紹介しようと思う。一本の蠟燭に灯した火は、そのままではすぐに消えゆく。しかし、その火を次の蠟燭、さらにまた次の蠟燭…と、灯し続けていくことで、その火は、いつまでも尽きることなく煌々と燃え続けていく。という意味だ。

私は、『附属の伝統』というものはきっと、この“火”のように無尽に受け継がれてきたものなのだろうと思う。そして、今まさに君たちも『附属の伝統』という“火”の灯し手になろうとしている。「誰かが」灯し手ではいけない、「誰もが」灯し手でなくてはならない。灯し方は人それぞれで良い。いや、むしろ、人それぞれ“が”いい。先達がこの附属に誇りをもって、それぞれの思うように“火”を灯してきたからこそ、今の附属の姿があるのだ。

『附属の伝統』を直に肌で感じてきた人たちにしかできない、この重要な役割。56番目の灯し手となる君たちは、この先、どのようにこの“火”を灯していつてくれるのだろうか。これからの君たちの活躍を心から期待している。

○保護者の方からのご意見・ご感想

- 多くの友人、先生方に支えられ、素晴らしい3年間を過ごすことができました。ありがとうございました。次の3年間も楽しんでほしいと思います。
- 県立高校の入試、お疲れ様でした。持てる力を出し切ったことと信じています。発表までの日がとても長く感じますが、ただただ、合格を願うばかりです。この先、どのような進路を進むかはそれぞれだと思いますが、附属で学んだこと、体験したことを越えることに会うことも多々あると思います。どんなことにも立ち向かえる人になってほしいです。お世話になった先生方、ともに過ごした9年生のみなさん、3年間本当にありがとうございました。
- 附属に通うのも残り数日だと思うと寂しいです。先生方、皆様のお力で自慢の息子に育ててください、感謝しかありません。附属で培われた精神を生かし、更に羽ばたいてくれると信じています。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。
- 今まで正しい努力をしてきたことを信じて、そして切磋琢磨した附属での3年間に感謝して県立入試と卒業式に臨みたいと思います。子どもたちには、社会に役立つ人として過ごしていけるよう、日々考えてこれからも成長を続けていってほしいです。先生方、本当にお世話になりありがとうございました。
- いよいよ卒業ですね。3年間本当に色々なことがありました。楽しいことばかりではありませんでしたが、これまでの経験で心身ともに成長してこられたと思います。辛いときも先生の励ましのおかげで今日まで来ることができたと大変感謝しております。ありがとうございます。
- 3年間お世話になりました。ありがとうございます。親子共に成長できたことを感謝しております。附属での学びを活かしてこれからも頑張っていきます!!
- 充実した3年間、ありがとうございました。
- いろいろな活動に取り組んでいる様子がよく分かりました。子どもの話とつながって読んでいて毎回とても楽しかったです。ありがとうございました。
- 1年間ありがとうございました。附属小学校に入学してからあっという間の9年間でした。卒業後は、皆それぞれの道に進むため、本格的な別れになると思います。残りの時間を悔いのないように過ごしてほしいです。
- 毎日楽しく学校に、9Aに通わせていただきました。ステキな一年間をありがとうございました。
- 悩んだり、失敗もあったりしたと思いますが、『自主協同』の校訓のもと、学びの多い学校生活を送ることができたのではないのでしょうか…。人として大きく成長できた時期だと感じています。高校に進学しても地道に、誠実に目標に向かって歩み続けてほしいと思います。支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。
- 受験を終え、いよいよ卒業式です。3年間、自由な環境で教育を受けさせて頂き、ありがとうございました。
- 三年前、不安と期待を抱きながら入学し、あっという間の三年間…。合格発表、卒業式を迎えるのみとなりましたが、娘の「附属に入学でき、ステキな学友と出会え、沢山の思い出がつくれてよかった!!」という言葉に何よりの幸せと感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

○学年便りをHPでも公開しています。HPアドレスは、こちら <http://www.f-edu.u-fukui.ac.jp/~fuzoku-g/>





